

令和5年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

( 中間・最終 )

吉浦中学校区 校番 15 学校名 吉浦中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
<p>*** ① 貴</p> <p>確かな学力</p>	<p>生徒が主体的に学習する授業づくりについて工夫改善を進め、学力を向上させる。</p>	<p>学力の向上を図る。</p> <p>課題解決に向けて自ら調べ、考えようとする意欲を向上させる。</p>	<p>○第1・2学年は標準学力調査の結果、国語、数学、英語について、全国平均を下回っていた。落ち着いて学習環境は維持できているが、全学年とも、学力を向上させることが課題であると考ええる。</p> <p>○アンケートにおいて、「課題解決に向けて進んで資料収集や取材する」という項目について肯定的な回答をした生徒の割合は80.5%、「クラスの人の意見が参考になる」の割合が各教科で90%前後、「新出問題を解こうとする意欲をもつ」生徒の割合は73.1%であった。「クラスの人の意見が参考になる」では、上半期より目標値を上回った。協働的な学びが実践されている結果であると考ええる。「新しい問題を解こう」とする生徒の割合は上半期より8ポイント下回った。新しい問題への動機付けが十分ではなかったと思われる。また、タブレット端末を活用しながら授業を行っている教職員は90%となった。</p>	<p>○呉市が導入しているキュビナを使い、基礎的な学力の定着を図る。課題がある領域、問題について、課題分析を丁寧に行い、改善ポイントを明確にして、計画的継続的に改善ポイントを取り入れた授業を行う。また生徒に対して、授業外(長期休業期間や試験期間等)での個別指導を行うなどの指導の工夫をし、確実な定着を図っていく。</p> <p>○本中学校区での「チャレンジ」の取組を充実させ、各教員が教科等の本質に迫る「考える授業づくり」について授業改善を行う。単元のゴールの姿を意識させ、取り組みたいと思える授業づくりを構築していく。その際、ICTの活用についても全教職員のものとなるように、情報の共有化を図る。</p>
<p>** ② 貴</p> <p>安心・安全な教育環境</p>	<p>社会性の向上と学習意欲の向上 防災学習の充実</p>	<p>自尊感情、自己肯定感を向上させ、学校生活への適応を図る。</p> <p>協働できる力を向上させ、地域に貢献する力を育む。</p> <p>地域の課題に気づかせ、防災の意識を高める。</p>	<p>○7・11月に学級集団や個について分析するためのアンケート(QU)を実施したところ、学校生活不満足群生徒の割合が1.1割減であった。不登校生徒・長欠生徒は上半期と比べて変化はあまりないが、教職員の一人一人に寄り添ったきめ細かな対応の成果だと考える。</p> <p>○アンケートにおいて、「今住んでいる地域には、良いところがあると思う」という項目に肯定的な回答をした生徒の割合は88%、「今住んでいる地域に貢献しようとしている」生徒の割合は81.4%と目標値を上回った。</p> <p>○アンケートにおいて、「災害時に避難する場所や避難の仕方について理解している」と回答した生徒の割合が92%となり、上半期より上回ったが、目標値の100%には到達できなかった。呼びかけが不十分であった。</p>	<p>○QUや教育相談により生徒や家庭の実態把握に努め、生徒支援及び学級づくりの取組に生かしていく。</p> <p>○生徒の様子をしっかりと把握し、生徒への直接の感謝・評価の言葉かけ等を積極的に進めていく。</p> <p>○スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの組織的活用により家庭・関係機関との連携を充実させる。</p> <p>○カリキュラムマップを基に、特に総合的な学習の時間を中心に、道徳科、教科等の教育活動において、横断的かつ系統的に郷土愛の育成の取組を引き続き行っていく。また、地域との連携を密にし、地域に貢献しようとする意欲の向上を育むようにする。</p> <p>○避難訓練の在り方の見直しを行い、自分事として考えられるように取り組む。学校だよりやホームページ等でも折に触れて呼びかけるようにする。</p>
<p>★ ③ 貴</p> <p>働き方改革</p>	<p>教職員が自らの意欲と能力を發揮できる教育環境を整える。</p>	<p>生徒と向き合う時間を確保する。</p> <p>ワークライフバランスを意識した職場環境づくりを行う。</p>	<p>○アンケートにおいて、「児童生徒と向き合う時間が確保されている」と感じる教員が92%となり、目標値を上回った。また、「自分をよく分かってくれる先生がいる」と感じている生徒の割合が86.3%となり上半期より目標値を上回った。教職員は業務の改善を図りながら、生徒との時間を確保していることが伺える。</p> <p>○「時間外勤務が月45時間を超える教職員の月平均人数」は、1人となり目標を達成している。見通しを持ちながら日々の業務に取り組んでいる結果であると思われる。業務の精選と共に教職員の働き方改革に対する意識が高まった成果と考えられる。</p>	<p>○引き続き、更なる生徒の実態把握に務めるよう、教育相談や面談の機会を位置付けていく。</p> <p>○引き続き、タイムスケジュールを意識して、業務を行うように段取りや分担、完了予定日等をホワイトボードに表示し、進捗管理を行っていき、個々の意識改革を図っていく。</p>